

# ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2023年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号

電話 076-461-3200

令和6年4月23日発行（年1回発行）

## フォグ 霧の色をしたオオカミ

マルタ・パラッツェージ／作 杉本あり／訳 Naffy／イラスト 岩崎書店



19世紀末のロンドン。13歳のクレイは、テムズ川の岸で泥の中から金目の物をあさり、仲間たちと暮らしていた。グループ同士の争いや労働力目当ての子ども狩りなど危険なこともあるが、自立した暮らしに誇りを持っている。

ある日、「イギリス最後のオオカミ」の売り文句につられサーカスに忍び込んだクレイは、調教師が誇り高いオオカミをいたぶる姿を目にして愕然とする。クレイはオオカミをフォグ（霧）と名付け、サーカスから逃がすことを誓った。

## ルール！

工藤純子／著 講談社



知里<sup>ちり</sup>は、校則で禁止されているスマホを使い、先生に取り上げられてしまう。後日、返してもらうために職員室へ行ったところ、反省文を読みあげるよう指示された。この屈辱<sup>くつじょく</sup>に知里は「スマホはいりません！」と突っぱねる。

そして、「中学生の主張コンクール」への参加を強制された知里たち文芸部はテーマを〈校則〉とし、以前から校則改正を目指していた生徒会と協力することにした。

## わたしたち地球クラブ

キャリー・ファイヤーストーン／著 服部理佳／訳 小学館

気候変動について集中的に学べる〈地球クラス〉。メンバーに選ばれたメアリーは、黒人のショーンとプロジェクトのペアを組む。空気を汚染するごみ焼却炉は、有色人種が多く住む地域に偏って設置されているらしい。メアリーたちは、生ごみを肥料に変えごみの量を減らすというアイデアを町の祭りで展示することになった。準備万端で臨んだ当日、ショーンたちが学区外生徒だったことで参加資格が剥奪<sup>はくだつ</sup>される。



## 夜空にひらく

いとうみく／著 アリス館



バイト先でトラブルを起こした円人<sup>えんと</sup>は、家庭裁判所で試験観察処分となり、ある煙火店<sup>えんかてん</sup>に住み込みで預けられた。花火を扱う職人たちに雑用を教わりながら生活を共にするが、自分とは違う恵まれた人たちだと思うとなかなか打ち解けられない。肝心の社長も円人の目にはちゃらんぽらんな人物に映る。けれど、社長が今までも少年たちを預かってきたのは、ある事故がきっかけだったと知り、円人は変わっていく。

## 車いすでジャンプ!

モニカ・ロー／作 中井はるの／訳 小学館



エミーの夢は、車いすモトクロスに出場すること。最高性能の競技用車いすを手に入れるため、手作りバッグをオンラインショップで販売しコツコツと費用を貯めていた。自由自在に車いすを操るエミーは、学校でも手助けは不要だ。ところが、新任の校長はエミーに介助員を配置したばかりか車いす用の募金活動まで始めてしまう。助けが必要な存在のように扱われ、エミーはいら立ちを隠せない。

## G 6 5

石川宏千花／作 さ・え・ら書房

胸が大きいことでトラブルに巻き込まれ、転校して叔母と暮らしている貴和。そんな貴和が心のよりどころにしているのは、自分と同じ体形の女優のブログだ。つらい思いをしてもブログを読むと一人じゃないと思えた。

そんな貴和を見守る存在はさらに身近にいた。ペパーミントグリーン色のブラジャー、自称ペパだ。貴和の気持ちを誰よりも理解しているが、その声が貴和に届くことはない。



## アンナの戦争 キンダートランスポートの少女の物語

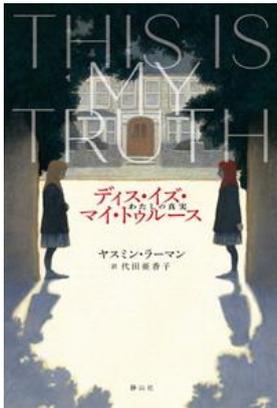
ヘレン・ピーターズ／作 尾崎愛子／訳 偕成社



第二次世界大戦前、ユダヤ人であるアンナはナチの迫害を逃れるため、イギリスの農家に預けられる。ドイツに残る両親を案じながらも安全な暮らしを送るアンナだったが、ある日、納屋に隠れていた負傷兵と遭遇する。兵士は、国内にいる病気の母親を訪ねるところだと語った。しかし、兵士がひそかにドイツ語を口にしているのを聞いたアンナは、スパイではないかと疑う。

## ディス・イズ・マイ・トゥルース わたしの真実

ヤスミン・ラーマン／作 代田亜香子／訳 静山社



アマニの父は、テレビにも出演する有名な獣医師だ。しかし家では母に暴力をふるい、まだ幼い弟まで父を倣<sup>なら</sup>って横暴さを見せ始める。クラスの人気者で完璧な成績を取る親友のフーダには、こんなことを話せない。

そのころ校内では、同級生の秘密を暴露するブログが話題を集めていた。ターゲットが次々変わる中、明かされたのは、アマニの家庭の秘密だった。

## シタマチ・レイクサイド・ロード

濱野京子／作 ポプラ社

希<sup>き</sup>和<sup>わ</sup>子<sup>こ</sup>は、友人に頼まれ廃部寸前の文芸部に所属していたものの、他の部員のように小説や詩が書けるわけではなかった。新学期になり、入部してきた意欲的な1年生に「作品を書かないなら何故文芸部にいるのか」と問われ、一筋に打ち込めるものがない希和子は自信をなくしてしまう。

そんなとき、妹の元カレである朔<sup>さく</sup>に、経験<sup>い</sup>を活かして恋愛をテーマにした作品を書くよう勧められた。



## モノクロの街の夜明けに

ルータ・セペティス／作 野沢佳織／訳 岩波書店



1989年、社会主義共和国のルーマニアは、大統領による独裁政治に支配されていた。民主主義国家の出版物や放送に接することは禁止され、監視や密告は日常茶飯事だ。17歳のクリスティアンは、諜報員に呼び出され、アメリカ人外交官の家庭をスパイするよう命じられる。断れば家族全員に危険が及ぶ。外交官の息子ダンと接触するうち、クリスティアンは、秘密のノートに自分の本音<sup>こゝろ</sup>を綴り始めた。